

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 新 GIFU-D0（ぎふうど）農泊推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内4176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

新型コロナウイルス感染症対策により、テレワークやリモートワークといった新しい働き方が普及し、働く場所を自由に選択できる人が増えてきている。

また、田園回帰の流れをうけ、都市住民が農村部で農業体験や農村ボランティアを行う「地域課題解決型」のワーケーションが注目を集めている。

そこで、地域課題解決型のワーケーションと県内の農林漁業体験とを掛け合わせた新たな旅行スタイルを、新ブランド「GIFU-D0農泊」として企画展開していくため、県内各地で作成された「GIFU-D0農泊」の企画を一体的に情報発信する専用のホームページを立ち上げる必要がある。

(2) 事業内容

県内の「GIFU-D0農泊」の運営を行う「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会の情報発信等の業務を支援する。

<「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会の主な活動>

- ・「GIFU-D0農泊」専用ホームページの作成
- ・旅行会社等販売先への営業活動
- ・参加者獲得のための広報活動

(3) 県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる施策であるため、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

都市農村交流推進事業費補助金

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費		
旅費		
需用費		
役務費		
委託料		
使用料		
補助金	5,000	専用HPの作成、情報発信及び営業活動
その他		
合計	5,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業・農村基本計画

(2) 国・他県の状況

近隣県（三重県、富山県、福井県、石川県）で「農泊」に着眼した農村の活性化に向けた取組みを実施。

(3) 後年度の財政負担

ぎふ農業・農村基本計画の目標年R7年度に向けて「GIFU-DO農泊」実施のための体制整備とブランド化を集中的に実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

県全体の農村のワーケーションを普及・啓発を目的とした事業であるため妥当である。

県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	GIFU-D0 (ぎふうど) 農泊推進事業費補助金
補助事業者 (団体)	「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会 (理由) 県下全域でグリーンツーリズムの推進に取り組む唯一の団体であるため
補助事業の概要	(目的) 岐阜県内の農村地域における都市農村交流を促進し、都市住民等の農林漁業体験者や岐阜県への移住者、農的関係人口の増加を図る。 (内容) 「GIFU-D0農泊」の情報発信に係る経費の助成
補助率・補助単価等	定額 ・定率・その他 (内容) 10/10: 上限5,000千円 (理由) 県施策の推進を図るため、必要相当額を助成する
補助効果	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県における農林漁業体験者数の増加 ・岐阜県への移住者、農的関係人口の増加
終期の設定	令和7年度 (理由) ぎふ農業・農村基本計画において令和7年度末までの目標を設定

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>岐阜県における農林漁業体験を中心とした都市農村交流体験者や移住者などが増加することにより、県内農村地域が活性化する。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	終期目標	達成率
	R2年度	実績	実績	目標	(R7)	
農林漁業体験者数 (ぎふ農業・農村基本計画)	100千人	178千人	280千人	290千人	300千人	59%

補助金交付実績 (単位: 千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	0	0	0

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	
令和3年度	
令和4年度	

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	・地方分散・田園回帰の流れが加速している中、都市農村交流の更なる推進が求められており必要性は増している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	グリーンツーリズムの推進を民間団体と連携することにより、現場のニーズに合った支援が実施されている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	民間団体と連携してグリーンツーリズム推進の取組みを効率的に実施している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ぎふグリーンツーリズムの情報発信や、観光、移住定住施策との連携の強化が必要。また、農泊ビジネスへの対応が求められている。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 地方分散、田園回帰の大きな流れをつかむためにも継続すべき。県内のグリーンツーリズムのとりまとめ役として重要な役割を果たしてもらう。
--

